

平成24年度 パーソナルサポート事業 足立区「いのち支える寄り添い支援事業」の実施について

足立区の自殺対策「生きる支援」の一環として、いのち支える寄り添い支援事業を平成24年度から実施している。

1 目的

地縁・血縁が薄い都市部では、その人を気遣い支援につなげる人がいないと、複数の悩みを解決することができずに悩み続け、自殺に追い込まれてしまう可能性が高まる。様々な生活上の困難を抱える自殺念慮のある区民に対して、パーソナルサポーター(PS)による寄り添い支援を行い、新たな一歩を歩みだす援助を行う。これまで進めてきた自殺対策の都市型モデルをさらに進化させ、自殺に追い込まれない「生き心地の良い社会」をめざす。

2 事業内容

- ・様々な生活上の困難を抱える自殺念慮のある区民に対し、パーソナルサポーター(PS)が各相談窓口にて同行して支援(心療内科への同行、法テラスへの同行など)
- ・複数の専門相談窓口との連携で生活破綻を食い止め、社会参加を促す
- ・緊急的な個別対応で自殺を防止
- ・支援情報などが検索できるウェブサイト「足立区版いのちと暮らしの相談ナビ」「仲間と居場所の発見ナビ」を立ち上げ、社会資源情報を登録し区民や関係者で活用

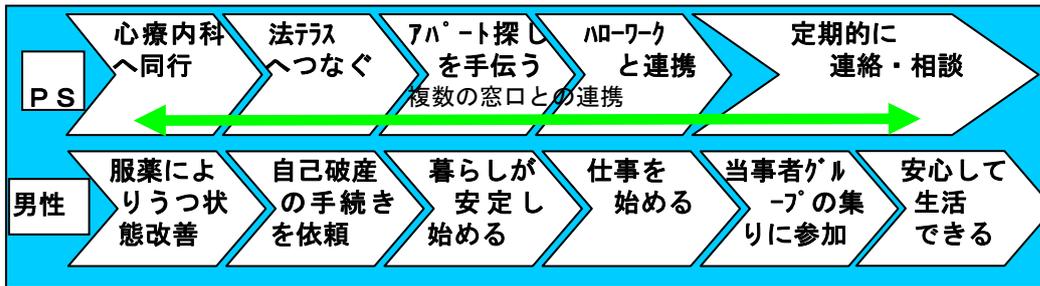
3 支援対象者

雇用・生活・こころと法律の総合相談会等の相談者から支援が必要な人を選定

4 実施状況

支援年月	新規支援対象者		継続支援者数	合計支援対象者
	男性	女性		
平成24年4月	1	1	0	2
平成24年5月	1	0	2	3
平成24年6月	3	1	3	7
平成24年7月	1	0	7	8
平成24年8月	0	0	8	8
平成24年9月	9	7	8	24
平成24年10月	1	1	24	26
平成24年11月	3	2	26	31
平成24年12月	3	3	31	37
合計	22	15		37

- 5 パーソナルサポーターによる支援パターンの具体例 ※30代男性の相談者
 仕事、住居を失い、インターネットカフェに寝泊り。多重債務、生きる希望をなくし
 「もう終わりにしたい」と語る。(うつ状態)



支援の結果、問題の解決の糸口が見つかり、徐々にではあるが、主体的に取り組めるようになっていく。

また、仕事をしながら当事者グループの集りに参加し同じような悩みを抱える人と交流できるようになった。(パーソナルサポーターが継続支援。)